

令和2年度 学校関係者評価報告書

大阪市立真田山幼稚園 学校協議会

新型コロナウイルス感染予防の観点から、学校協議会会長及びその他委員の了解を得たうえで、持ち回りにより資料を配付し、令和3年2月26日（金）～3月10日（水）にFAXやメール等による通信手段を用いた意見交換を行い、協議委員から下記の評価を受けた。

1 総括についての評価

取り組み内容についての説明が具体的で、各視点についての結果に基づきしっかりと分析されている。保護者アンケートの結果がすべて高評価であり、園の教育内容についての保護者の満足度が高いことが分かる。コロナ禍の状況下、園の様子を実際に見る機会はほとんどなかったが、教職員が工夫して教育に取り組んでいるのが分かった。

2. 年度目標ごとの評価

<年度目標：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現>

①目的をもって異年齢や他クラスと意図のある交流を行うことで、教師や友達に親しみ、受け合える関係をつくり、安心して過ごすことができるようにする。取り組みや子どもの育ちを保護者に分かりやすく伝えることで、保護者アンケートで「相手の思いに気づき、自分の思いを表現できるようになった」の肯定的回答が85%以上になるようにする。

子ども同士の交流がもちにくい状況であるが、教職員が連携をとりながら、様々な工夫をして進めたことで、子ども同士互いにより関係が築けている。できる限りの感染症予防対策をとっており、保護者として安心できた。コロナ禍により行事が減り、園での子どもの様子を見る機会が少なかったが、様々な方法で子どもの様子や園での取り組みを詳しく伝えたことで、子どもたちが安心して充実した園生活を送っていることがよく分かった。

<年度目標：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上>

①就学前教育カリキュラムや幼稚園教育要領等に基づいて教育課程を見直し、自ら環境にかかわる中で探求心・好奇心・思考力の向上を図るような保育内容を工夫する。保護者アンケートで「自分で考え、工夫する機会が増えたと感じる保護者を80%以上にする。

②子どもの実態に即した年間計画を立て実践し、園の取り組みについて保護者に分かりやすく伝え、保護者アンケートで「進んで運動遊びに取組み、体を動かすことが好きになった」と感じる保護者を80%以上にする。

保育内容の工夫を全教職員で連携をとりながら取り組んだことが、この状況を受け入れながら、積極的にたくましく園生活を送る子どもたちの様子につながった。保護者は子どもの育ちを感じ、高評価になったのだと思われる。

園外に出ることが難しい状況であったが、対策を十分にとり、近隣への園外保育を計画、実行し、楽しみながら長い距離を歩く経験をするなど、体力向上への取り組みも積極的に行っていた。また園内でも、予防対策を工夫しながら体を動かす楽しさを感じられる取り組みが進められていた。

<年度目標：その他>

①色々な音やリズムに気付き、教師や友達と音やリズムにふれて遊ぶことを楽しむことで、豊かな感性を養い、保護者アンケートで「音楽にふれて遊ぶことを楽しむようになった」の肯定的回答が80%以上になるようにする。

歌を歌うことが難しい状況であったが、歌だけでなく様々な取り組みで、リズムにふれながら音楽を楽しんでいた。生活発表会は例年のようには取り組めない部分もあったが、子どもは音楽にふれることを存分に楽しみ取り組んだ。

3 今後の学校運営についての意見

今年度の学校協議会は、持ち回りの実施で、園で一度も実施することができなくて残念だった。来年度は、協議会委員で集まり、幼稚園運営について意見交換ができるような状況になることを望む。